

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	16	課題区分	C	令和8年(2026年)4月16日
横断的な課題	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興					南信州地域振興局
地域重点政策	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興					
実施機関	南信州地域振興局					
事業名	南信州シードル振興事業	担当課	所属	商工観光課		
			電話	内線 2263		
			E-mail	minamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要	目的 (目指す姿)	南信州産リンゴを使用した”南信州シードル”を首都圏にPRするため、銀座NAGANOで開催するスーパープレゼンテーションを活用する				
	現状と課題	南信州産リンゴを使用したシードル振興については、現在、NPO国際りんご・シードル振興会や南信州シードル協議会により、シードルをPRする取組が進められているが、令和3年度以降、醸造事業者数も頭打ちとなり、コロナ禍を経て増加傾向だった醸造量も令和5年度には減少し、市場が飽和状態の雰囲気にある。 NPO国際りんご・シードル振興会では、南信州のリンゴを使用したシードルについて「南信州シードル」と称してブランディングを進める計画があり、令和6年度には「南信州シードル公民共創プロジェクト」と題し、「南信州シードル」の地域ブランド化を目指して、民間企業とワークショップを行った。 その他令和6年度には、当局において日本国内においてシードル発祥の地とされている青森県弘前市のシードル関係団体を南信州シードル醸造者と視察し、醸造方法やPRについて学んだほか、意見交換を実施し、共同イベント実施に向けた提案や、首都圏でのプロモーションの重要性を確認し、実施に向けた検討を行った。				
	内容 (変更後の内容)	令和6年度、南信州シードル協議会会員並びに南信州シードルの関係者と弘前シードル関係団体との関係構築を行い、シードルに関する課題の共有や共同で行うプロモーションについて検討や、首都圏でのプロモーションの重要性を確認した。 令和7年度は銀座NAGANOを活用した首都圏でのプロモーションを実施し、他地域のシードル事業者との共同プロモーションの実施について事業者と相談の上、実行に向けて準備する。 <スーパープレゼンテーションの活用> 銀座NAGANOで行うスーパープレゼンテーションに参加し、旅行関係報道機関などに向けて、南信州のシードルを活用した観光PRに関するプレゼンテーションおよび親睦会を実施する。 日程:令和7年7月15日 参加者:(一社)南信州まつかわ観光まちづくりセンター2名、松川町役場職員2名、商工観光課職員3名 内容:松川町と連携し、地域の観光及び南信州シードルのプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションでは南信州シードルの試飲や地域の食材の試食を行い、南信州のシードルや関係する観光コンテンツを首都圏のメディア等に向けて情報発信し、南信州地域への関心を高める。				
事業期間	令和7年4月 ~ 令和8年2月					
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	①スーパープレゼンテーションの活用	プレゼンテーション用シードル等の購入	22,624	南信州(松川を除く)のシードル、リンゴジュース		
	①スーパープレゼンテーションの活用	職員旅費	66,160	職員3名分		
	合計	88,784				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	スーパープレゼンテーション参加メディア、エージェント数		20名以上	13名	未達成	
事業実績・成果	長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」において、月1回程度開催されている「銀座NAGANO発！スーパープレゼンテーション」を活用し、松川町および(一社)南信州まつかわ観光まちづくりセンターと連携して、首都圏のメディアおよび旅行エージェント計13名を対象に、南信州産シードルの魅力を紹介するプレゼンテーションおよび試飲を実施した。 銀座NAGANOの担当者を通じ、既知の首都圏メディアおよび旅行エージェントに対して参加呼びかけを行ったものの、参加者数は目標に達しなかった。この要因として、南信州およびシードルの認知度の低さが影響したものと考えられる。一方、事業実施後のアンケート結果からは、南信州の魅力やシードルに対する関心が一定程度高まったことが確認できた。今後も管内の魅力あるコンテンツについて、引き続き丁寧かつ継続的に情報発信を行いたい。					

今後の方向性

令和5年度以降、地域振興局が中心となり、南信州および弘前のシードル関係事業者・関係団体との関係構築を進めてきた。その結果、令和7年度には、6月および1月の2回にわたり、弘前のシードル関係者が南信州のシードル事業者を視察するなど、事業者同士による自主的かつ継続的な交流が行われている。

また、NPO国際りんごシードル振興会および南信州シードル協議会が主体となり、「集まれシードルの谷」や「酔いフェス」など、シードルの魅力を地域内外に広く発信するイベントを企画・開催するなど、活発な活動が展開されている。これらの取組を踏まえ、当局としては、引き続き両団体の活動を継続的に支援していく。